

「ALWAYS-J」の審査会支援システムにより 要介護認定審査業務のペーパーレス化を実現

これからの超高齢社会に備え、高齢者を社会全体で支える仕組みとして導入された介護保険制度が開始されて10年余り。要介護・要支援認定者は全国で500万人を超え、認定業務も増加する一方です。要介護認定支援に特化したシステム「ALWAYS-J」は、煩雑化する審査会業務に対するきめ細かいフォローとペーパーレス化を実現しており、自治体からも高い評価をいただいています。

審査会業務のスムーズな 進捗を支援

介護サービスの利用を受けるには要介護認定、つまり被保険者が介護を要する状態であることを公的に認定される必要があります。要介護認定は、訪問調査の情報をもとにコンピュータ処理で一次判定が行われた後、介護認定審査会で二次判定が行われます。介護認定審査会の委員は、医師、薬剤師、保健師、介護支援専門員、社会福祉士といった、保健・医療・福祉の学識経験者などで構成され、通常は5人のチームで申請者の介護度を判定しています。

介護認定審査会の業務および申請から結果通知までの認定事務に係る業務の支援に特化したのが、東芝ソリューション(株)の「ALWAYS-J」です。

ALWAYS-Jの主な機能の特長は次のとおりです(図-1)。

■きめ細かいアシスト機能(段階別進捗管理機能)

申請から結果通知までの申請者の進捗状況を一覧で把握するとともに、進捗遅れのある申請者に対しては自動的にアラームを表示します。また、期限内に結果通知まで完了させるために、計画と進捗を比較管理します。

■簡単サポートで負担軽減(審査会管理機能)

審査会のスケジュール管理や調整を画

面から簡単に行うことができ、申請者の審査会への効率的な割付ができます。また、特記事項内の個人情報なども簡単にマスキングすることができます。

■検索性向上によりスピーディに柔軟に(申請者管理機能)

約100種類の検索キー項目により、申請者からの問い合わせに迅速かつ柔軟に対応できます。また、個人の審査履歴や進捗状況も詳細に表示し確認することができます。

■審査会をその場でアシスト、ひと目で違いがわかるビジュアル性(審査会支援システム)

基本調査の状態が把握しやすい棒グラフ表示や不整合/特記事項の該当項目

のマーク表示、前回との比較を色分け表示するなど審査の着目ポイントを分りやすく表示します。また、審査会場で瞬時に一次判定の再計算ができるので、審査の質が向上し、その場で議事と判定結果を入力することにより、双方の紐付けが可能となります。

■電子審査会でさらに効率的に(審査会メディア配布機能オプション)

審査会の都度、大量に紙で用意していた審査会資料を電子データにすることにより、コストを大幅に削減でき、ECOに貢献できます。また、電子化にすることにより、予習した結果を集計して各審査員の判定意見を一覧表示することができます。



図-1 ALWAYS-Jのシステム機能体系

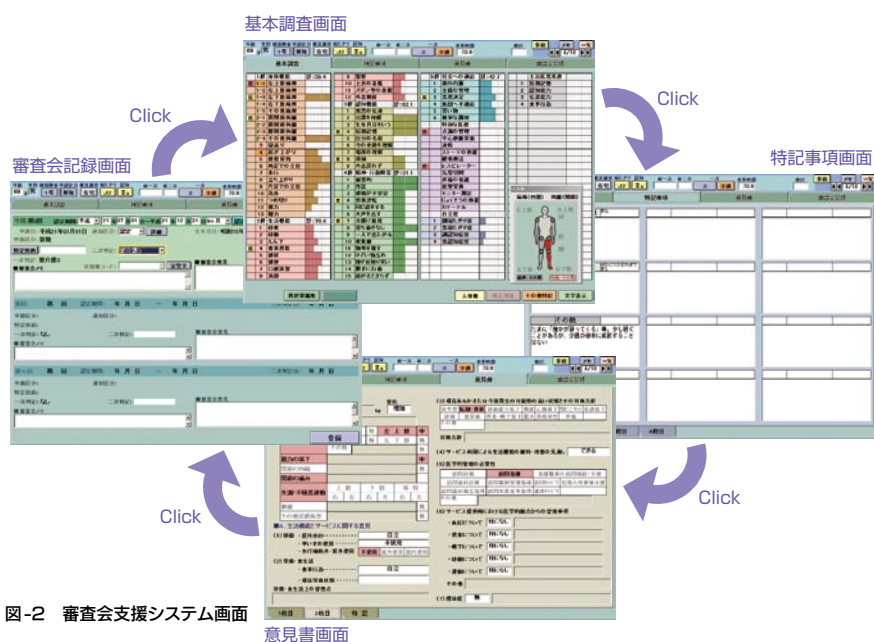


図-2 審査会支援システム画面

介護認定審査会専用システム ならではの きめ細かな機能を搭載

ALWAYSシリーズは、全国に70自治体の導入実績があり、その中で当社が担当している自治体の1つに神奈川県平塚市(人口:260,000人)があります。

平塚市は当初、他社の要介護認定支援システムを使っていましたが、審査会資料に紙代や印刷代、廃棄代のコストがかかる、さらに申請者の問い合わせに即座に対応できない、操作性や検索機能などが不十分、といった課題を持っていたことから、当初システムのリプレイス時に、本システムを採用していただきました。

本システム採用の決め手となったのは、紙の審査会資料ではなく、電子データで審査会資料を配布できる「審査会メディア配布機能」オプションの存在が大きかったものと考えています。本オプションは平塚市のリプレイス時期とほぼ同時期にリリースしており、他の自治体に先駆けて導入していただきました。

審査会支援システムは、審査員の事前予習を行わない完全ペーパーレスの審査会が実現できることをコンセプトとしてい

ます。しかし、さまざまな自治体から「審査会開催1週間前に審査会資料を配布して、審査員に予習を行ってもらうことは継続したい」との意見がありました。審査会メディア配布機能は、こうしたニーズに対応し、審査会支援システムを各審査員に電子媒体で配布できるようにしたものです。各審査員は、職場や自宅のPCで審査の予習・準備を行え、審査のポイントにマーカーを引いたりコメントを入れたりすることができます(図-2)。

また、予習・準備段階で介護度の事前判定もでき、実際の審査会では、各審査員の判定結果を集計し結果が即座に見られるようになっています。

審査会メディア配布機能は、電子媒体だけで起動する仕組みであるため、審査員の職場や自宅のPCに別途ソフトウェアをインストールする必要がありません。また、電子媒体に入れるデータには一切個人情報が含まれず、パスワードも設定できるほか、データ自体も暗号化して保存されるため、セキュリティについても配慮しています。

平塚市では、この機能により、審査に係る資料のペーパーレス化を実現し、コス

トを大幅に削減しています。

自治体福祉業務の さらなる最適化への提案を

ALWAYS-Jには、前述した審査会メディア配布機能のほかに、いくつかのオプションがあり、特に審査員および主治医などへの報酬支払管理ができる報酬支払機能、調査員がPCから調査票の入力を行うことができるモバイル認定調査支援機能も非常に高い評価をいただいています。

当社は、ALWAYS-Jに関して、2000年からの自治体介護業務で培った電子台帳化ノウハウ、業務分析技術、他社システムとのデータ連携により、自治体へのよりきめ細かなサービス提供を図るとともに、ALWAYSシリーズとして、要介護認定支援システムALWAYS-Jのほか、障害認定支援のALWAYS-J(障害)、介護事業分析のALWAYS-G、地域包括支援のALWAYS -Cと福祉・保健行政分野全体にソリューションを展開しています(図-3)。

福祉・保健行政ソリューション



図-3 ALWAYSシリーズ

これからの高齢化社会であらゆる人にとって関心があり、マーケットも拡大する一方の福祉・介護の分野で、自治体の業務がより最適化され、かつ使いやすいパッケージやシステムの提案ができるよう努めていきます。

(ソリューション開発事業部 北沢真一)